

## 1. 建学の精神

### 《上智の精神》

「上智」という名称は、伝統的なカトリックの祈り「聖母マリアの連祷」の中の一句である「上智の座」に由来し、「最上の叡智」を意味しています。

また、校章の鷲は真理の光を目ざして力強くはばたく鷲をかたどったもので、その姿は上智大学の本質と理想とを表わしており、中央にしるされた文字は本学の標語「真理の光」Lux Veritatisの頭文字です。

上智大学は、海外では早くからソフィア・ユニバーシティの名で親しまれてきましたが、このソフィアはギリシャ語のΣΟΦΙΑからとったものであり、それは「人を望ましい人間へと高める最上の叡智」を意味します。この叡智こそ本学が学生に与えようとする究極のものであり、本学の名称“上智”(SOPHIA)にはほかなりません。

私たちは、激動する現代世界に向かって広く窓を開き、人類の希望と苦悩をわかちあい、世界の福祉と創造的進歩に奉仕することを念願します。

### 《教育理念》

上智大学短期大学部は、上智大学の女子教育への関心に応える形で設置されました。

上智短期大学（現上智大学短期大学部）設立準備委員長であり、初代学長として本学の基礎を築いたジェラルド・バリー師は、本学で学ぶ女性たちに時代を越えて以下のように語りかけています。

『上智短期大学の教育は、キリスト教ヒューマニズムに基づいています。その基礎の上に立って、専門分野の徹底した学習を行うばかりでなく、カトリシズムの精神を生かした人間形成を目指し、豊かな教養と円満な人格を備えた女性の育成を第一の目標とします。

また、姉妹校上智大学と同様、東西文化をつなぐ役割を第二の目標としています。そのため本学も国際性あふれた教授陣を用意しており、学生は、この雰囲気の中で、おのずから広い視野と国際感覚を身につけることができるでしょう。

この二つの目標のほかに、学生は、英語で学びながら、Language Spiritを把握するよう努力することが求められています。その努力を通じて学生ひとりひとりが自己を発見し、人間性をいっそう豊かにすることができるでしょう。』

(出典：昭和47年「新設上智短期大学の案内」)

バリー師の意思を継承した本学の教育は、《上智の精神》に共鳴し実践していく志を涵養するとともに、幅広い知識と多くの人脈、深い愛情と強い信念の陶冶により、この教育理念を実現することのできる女性の育成を目指しています。

## 2. 沿革と年譜

### 1. 沿革

上智大学短期大学部（2012年4月より上智短期大学から名称変更）は、1973年（昭和48年）、学校法人上智学院秦野キャンパスに、上智大学の姉妹校として設立されました。

本学創立の源は、遠く東洋伝道の先駆者聖フランシスコ・ザビエルの宿願に基づいています。東洋にはじめてキリスト教を伝えた、ローマ・カトリック教会の修道会のひとつであるイエズス会の会員のひとりであるザビエルは、1549年（天文18年）に日本に上陸し、日本人の向学心を目のあたりにして都に大学を設立する計画をたてましたが、わずか2年余りの滞日（1549年～1551年）では、実現には至りませんでした。それから約360年を経た1906年（明治39年）、時のローマ教皇ピオ十世が、日本における大学設立の事業を、ザビエルの属したイエズス会に委託したことによって、その念願が実現の緒につきました。こうして、1911年（明治44年）財団法人上智学院が、イエズス会によって、イギリス人・フランス人・ドイツ人会員の派遣をもって創立されました。つづいて1913年（大正2年）、財団法人上智学院は、神と人間を尊ぶキリスト教ヒューマニズムを基底とし、永遠の真理を求めて人間形成に献身する、教員・職員・学生の共同体を教育理念とする、上智大学を設立しました。

1957年（昭和32年）には、社会の要請により、女子学生を迎え入れて、男女共学としました。それ以来、上智大学の女子教育への関心が高まると同時に、女子学生の卒業後の活躍ぶりが社会から高く評価されたことと相まって、1972年（昭和47年）、かねてから神奈川県秦野市に用意されていた校地にイエズス会の会憲の精神に基づいて創立されている聖マリア修道女会の協力を得て、短期大学を設立することとなりました。ジェラルド・バリー師を初代学長に上智短期大学は1973年（昭和48年）4月に開学し、2012年（平成24年）に学校名称を「上智大学短期大学部」に変更しました。

上智大学短期大学部は、校名「ソフィア」が表している「永遠の真理を知り、真の愛に生きる知恵」をもって、「他の人々のために生きたキリスト」を模範として、国籍や人種を超えて人類社会に貢献する人間形成を目指す、同じ建学精神を有しています。

### 2. 年 譜

1911年	（明治44年）	財団法人上智学院設立。
1913年	（大正2年）	専門学校令による上智大学設立。
1928年	（昭和3年）	大学令による上智大学（文学部、商学部）開設。
1932年	（昭和7年）	専門部開設。
1948年	（昭和23年）	新制大学文学部、経済学部を開設。
1951年	（昭和26年）	私立学校法による学校法人上智学院設立。 新制大学院修士課程開設。
1955年	（昭和30年）	大学院に博士課程開設。
1957年	（昭和32年）	法学部増設。
1958年	（昭和33年）	神学部、外国語学部増設。
1962年	（昭和37年）	理工学部増設。
1963年	（昭和39年）	上智社会福祉専門学校を設立。
1973年	（昭和48年）	上智短期大学を設立。
1976年	（昭和51年）	大学院学則を改正し、博士前期・後期課程に変更。
1987年	（昭和62年）	比較文化学部増設。
2005年	（平成17年）	総合人間科学部増設。
2006年	（平成18年）	比較文化学部を改組し、国際教養学部を開設。
2008年	（平成20年）	理工学部を改組。
2011年	（平成23年）	学校法人聖母学園と法人合併。 総合人間科学部に看護学科を増設。
2012年	（平成24年）	上智大学短期大学部に名称変更。

### 3. Campus Ministry

キャンパスミニストリーは、上智大学短期大学部の建学の精神であるキリスト教的な人間形成の理解と実践を目指して、学生や教職員が行うキャンパスでのカトリック活動をサポートします。

#### カトリック活動

キャンパスミニストリーは年間を通じて次のような活動を行っています。詳しくはキャンパスミニストリーのホームページを参照してください。

- ◎ 大学の儀式（入学ミサ、卒業ミサ、先哲祭ミサ、クリスマス会など）
- ◎ 誕生ミサ（毎月一回）
- ◎ 祈りの集い
- ◎ 聖書研究
- ◎ 講演会や黙想会の案内
- ◎ 宗教に対する質問や相談
- ◎ 宗教学、人間学関係の図書の貸出し

キャンパスミニストリーのオフィスは、研究棟2階の4219室にあります。

また、誕生ミサの行われる「聖堂」は3号館3階に位置し、正面に雄大な富士山を眺望する美しい祈りの場です。

### 4. イエズス会

学校法人上智学院の設立母体であるイエズス会（Societas Jesu, 英語名 Society of Jesus 略称 S. J.）は、日本にキリスト教を伝えた聖フランシスコ・ザビエル（1506－1552）らとともに聖イグナチオ・デ・ロヨラ（1491－1556）によって1540年に設立されました。現在全世界に約18,000人の会員を擁し、使徒的修道会として世界各地で800余校の中高校・大学及び研究、教会司牧、黙想指導、著述、出版をはじめとする様々な活動に携わり、現代世界に福音をもたらそうとつとめています。

聖イグナチオは、自分の受けた霊的体験を「霊操」と書物にまとめ、それを土台としてイエズス会を創立しましたが、「霊操」の中で次のような“原理と基礎”を述べています。

#### 《もっとも大切な原理と基礎》

私たちの人生の目的は神と共に永遠にいきること  
 神は私たちを愛して、私たちに命を与えられた。  
 私たちが神の愛に応えるならば、神の命が限りなく私たちに流れ込む。

この世界の全てのものは神からの贈り物。  
 神がもっとよくわかるように、神をもっとよく愛しかえすように、  
 神がこの贈り物を私たちに示された。

だから、神の贈り物全てを、もし、それが人びとを愛する助けとなるなら、  
 私たちは大切に使う。  
 でも、神のどんな贈り物であれ、それが私たちの人生の中心となるなら、  
 それが神にとってかわり、私たちが目的にむかって成長するのを妨げる。

だから、毎日の生活において、神が創られた全ての贈り物を前にして、選ぶことができ、義務に拘束されていない限り、心の均衡を保たなければならない。  
 健康か病気か、裕福か貧乏か、成功か失敗か、長生きか早死にか、どちらかにこだわるべきではない。  
 なぜなら、全てのものが、神の内にある私たちの命にもっと深く応えるように私たちを呼び起こす力を秘めている。

私たちの唯一の望み、私たちの唯一の選びはこれであるべきだ。  
 私は求め、私は選ぶ。私の内にある神の命を深めるようよりよく導くものを。  
 （聖イグナチオ・デ・ロヨラの「霊操」から）

## 5. 上智大学短期大学部ディプロマポリシー

上智大学短期大学部は、建学の精神を具現化しうる女性を陶冶し、国際社会の諸問題に対応しうる者を卒業生として輩出していきます。つまり、本学で学業を修めた者は、以下に掲げる知識と教養を備える者であり、その複合的な価値である人間力を備えることにより社会的使命を果たすことができます。

このような教養と知性、人間観を備え、かつ上智大学短期大学部学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を科目群毎に修得した者に対し、本学は短期大学士（英語）の学位を授与します。

- (1) 豊かな人間観をもって「人間の尊厳」を実現できること  
「他者のために、他者とともに (Men and Women for Others, with Others)」の精神を实践する志向を持ち、さらに個々人の多様性を尊重しうる豊かな人間性を備えることができます。
- (2) 多文化共生の社会形成を担うことができる国際対応力を備えること  
国際社会への関心を持ち、さらに言語的・文化的・社会的な多様性を俯瞰し、肯定的に理解することで、社会の諸問題に対応するための力 (Global Competency) を持つことができます。
- (3) 人や社会の懸け橋となり、信頼関係を自ら構築できること  
異なる価値観や背景を持つ他者と信頼関係を築き、東西文化の繋ぎ手となることができます。
- (4) 当事者として社会に貢献する意志を備え、責任を伴う決断と実行を行うことができること  
自らが主体となって人材を繋ぎ、社会の諸問題や目標に挑戦しつづけることができるようになります。
- (5) 事象を批判的に検証し、本質的な課題を発見できること  
物事を体系的に整理し、多角的に考察することで、潜在的な事実から物事の本質を見出すことができます。
- (6) 学際的な論理考察から、新たな価値を創造することができること  
様々な分野の知識や既知の事実を、独自の視点をもって複合的に組み合わせることで新たな概念に意義を創り出すことができます。
- (7) 自己学習推進力を育みつづけることができること  
現状に満足することなく、自ら自己形成の課題を設定し挑戦しつづけることのできる意欲を生涯にわたって持ち続けることができます。

## 6. 上智大学短期大学部英語科ディプロマポリシー

### 1. 人材育成方針

上智大学短期大学部英語科では、異なる文化や思想をもつ世界中の人々と信頼関係を構築できる実践的な英語能力と、言語の背景にある文化や歴史を複合的に考察することのできる教養力と専門力を身に付けることにより多文化共生の理念を实践できる人材を育成します。つまり、本科の修了者は、以下に掲げる教養力と専門力、そして言語力を備えるものです。

- (1) キリスト教ヒューマニズム精神に共鳴し自らが実践できること（献身の精神）  
キリスト教の倫理や哲学の視座に基づき世界を考察することができます。また、その精神の根底に流れる他者愛に共感し実践することができます。
- (2) 地球市民としての人格が形成されていること（アイデンティティ・自己形成）  
国際的な事象に強い関心と理解していく志向をもち、国際社会の構成員としての視野と自らの強い意志をもつことができます。

- (3) 幅広い専門知識を探究する術と意欲を備え実践すること（知識志向）  
分野横断的に学問を探究し続けるための方法と志向を持ち、継続的に知識を探究していくことができます。
- (4) 英語を実践的に運用し、他者とのコミュニケーションができること（英語技能、人間関係の構築）  
英語を実践的に運用するための4技能（読む・書く・聞く・話す）を身につけることができます。また、自己の考えを論理的に発信し、他者との豊かな人間関係を構築することができます。
- (5) 英語圏と日本の文化を比較検証し、多様性から価値を見出すことができること（文化の比較検証）  
英語と英語圏の歴史や文化、社会事象を理解し、それらの文化圏と日本との関係を考察するための広い文化的視野をもち、さらに独自性の中から共通性を見出すための視点や方法を修得し、それを応用することで、社会改善に努めることができます。
- (6) 国際的な視点で社会を理解するとともに、様々な背景を持つ人や社会との相互理解の担い手となることができること（多文化共生の実践）  
世界の多様な事象を多面的に理解し考察することを通して国際理解を深め、多文化共生社会の実現に貢献することができます。

## 2. 学修の4つの観点と到達目標

上智大学短期大学部英語科を修了した者は、専修分野である英語の学修と幅広い知識の修得を通して多文化共生の国際社会に貢献しうる人材として、4つの観点から以下に掲げる素養と能力を持つことができます。

- (1) 関心・意欲・態度
- ① 「他者のために、他者とともに (Men and Women for Others, with Others)」のキリスト教ヒューマニズム精神の視座に基づく社会貢献の志を抱くことができます。
  - ② 自身の周辺に留まらず世界や地域の諸課題に自ら主体となって挑み続けることができます。
  - ③ 国際的な多様性に対する理解と共感をもつことができます。
  - ④ 英語の学びを通して得られる新たな知識や経験、出会い等による自己成長に気づき、自らの喜びとしていくことができます。
- (2) 思考・判断
- ① 国際社会や身近な地域にある国際性への気づきと推察ができます。
  - ② 日本および英語圏の社会の諸問題について多様な情報を収集し、それらを総合的に判断して国際社会の問題発見と解決の方策を探究することができます。
- (3) 技能・表現
- ① 英語学修を通して、英語の4技能（読む、書く、聞く、話す）を総合的に運用することができます。
  - ② 英語で表現された資料を読み、聞き、内容を理解し、資料を的確に収集し分析、思考し、英語による多様な自己発信、自己表現、人間関係の構築ができます。
  - ③ 英語を用いて論説文 (essay) や論文 (academic paper) を作成し、それを通して論理的思考にもとづいた表現ができます。
- (4) 知識・理解
- ① 英語圏の歴史や文化、社会事象を理解し、それらの文化圏と日本との関係を比較考察する国際的視野を持つことができます。
  - ② 英語および日本語を通して幅広い専門知識と教養を備えていることができます。
  - ③ 多様な分野を修得し、得られた知識や経験を自らの視座を持って横断的に組み合わせ、独自の提言や考察ができるようになります。

## 7. サービスラーニング

サービスラーニングとは「社会参加、実践を通じた学外での学びと、授業などの学内での学びの融合」を意味します。ボランティア活動などの社会奉仕活動（サービス）を通して社会参加を行い、そこで得られる学びと授業を通して得られる学びを効果的に結びつけて、「社会の知恵」と「教室の知識」を融合する試みです。本学のサービスラーニング活動は上智大学短期大学部の教育理念の三つの柱、即ちキリスト教ヒューマニズム、国際性、英語発信力と密接に結びついています。キリスト教ヒューマニズムに則った他者への奉仕、国際性を培い言語教育の実践である地域の外国籍市民を対象とした日本語支援や教科学習支援、地域の教育機関で行う英語教育支援及び日本語教育支援ボランティアは、本学におけるサービスラーニング活動の中核を成しています。地域社会における異文化間・異世代間のコミュニケーションは、学生にとって自分自身を見つめ直し、自己形成を行うための貴重な機会となります。「他者のために」「for others」そして「他者と共に」「with others」の精神を体現・実践するそれらの活動を通して、学生は社会人基礎力と人間力を成長させてゆきます。そのことは共同体と社会の主體的な構成員として、自らの意思によって積極的に共同体と社会を形成し育むと同時に、確かな責任を担うことのできる女性への成長と繋がるのです。

以上のような学生の活動を支援するために、本学は2008年にサービスラーニングセンターを学内に設置しました。サービスラーニングセンターは地域社会への窓口となり、地域の教育機関、公的機関、団体、及び家庭と連携し、本学学生が行う様々なボランティア活動を支援します。そのために、センターにはコーディネーター及びチューターと呼ばれるスタッフが配属されています。コーディネーターとチューターは、ボランティア学生と派遣先を繋ぐだけでなく、教材選び、レッスンプランの作成、教授法などの支援も行います。また人間関係上の精神的な支援も行います。本学のサービスラーニングに対する総合的な試みは、2008年度文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(GP)」に採択され、今後もさらなる活動の充実を目指しています。サービスラーニングセンターは2号館・ソフィアホール2階に位置しています。

### 【サービスラーニングセンター開室時間】

平日9:00～18:00（窓口取扱時間は9:00～11:30、12:30～17:00）

※夏・冬の一斉休暇、特別な場合の開室時間・窓口取扱時間は、その都度掲示します。

### 1. 日本語・教科支援ボランティア活動

1988年に本学学生と教職員によって外国籍市民宅でスタートしたボランティア活動では、日本語や教科の学習支援と日常的な生活支援を行ってきました。ボランティア学生は、外国籍市民に日本語や教科を教えることにより異文化や語学教育への理解を深め、主体的な奉仕の精神を体験的に学ぶと同時に、秦野市近隣地域に社会人として参加する機会も得ています。この取り組みは2004年度の文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム(GP)」に採択され、学外からも注目され高い評価を得ています。

2008年度には、秦野市の教育機関との連携のもとに、市内の小中学校へ本学学生が赴いて日本語教育支援を行うボランティア活動も始まりました。地域の学校内の「国際教室」では、日本語学習支援の必要な外国籍児童の取り出し授業が行われていますが、そこへ本学の学生が行き、国際教室の先生の指導のもとで日本語支援を行なっています。また、通常の教室内の授業に入り、外国籍児童に寄り添う形で授業に参加したり、児童ホームや公民館など、教育機関以外にも連携の幅を広げて活動しています。

### 2. 英語教育ボランティア活動

学習指導要領の改訂によって、2002年度より小学校の教育課程に「総合的な学習の時間」が導入され、その一環として「国際理解教育」の名のもとに英語（英会話）を教えることもよいこととなりました。上智大学短期大学部の英語科として、特に地域の学校に対して、何か貢献できることはないだろうかと考えていたところに、実際に地元の小学校からの要請があり、2002年度末に発足したのがこの英語教育ボランティアです。現在は秦野市を中心に公立の幼稚園や小学校でボランティア授業を行っています。2011年度からは小学校の新学習指導要領の全面実施によって、5・6年生で外国語活動が必修化されました。本学学生ならではの英語でのコミュニケーションに力点を置いた本学のサービスラーニング活動への期待が高まる中、活発なサービスラーニング活動を展開しています。

## 8. 教員組織

理事長 高祖 敏明  
 学長 滝澤 正  
 学長代行 山本 浩  
 科長 Melvin Andrade

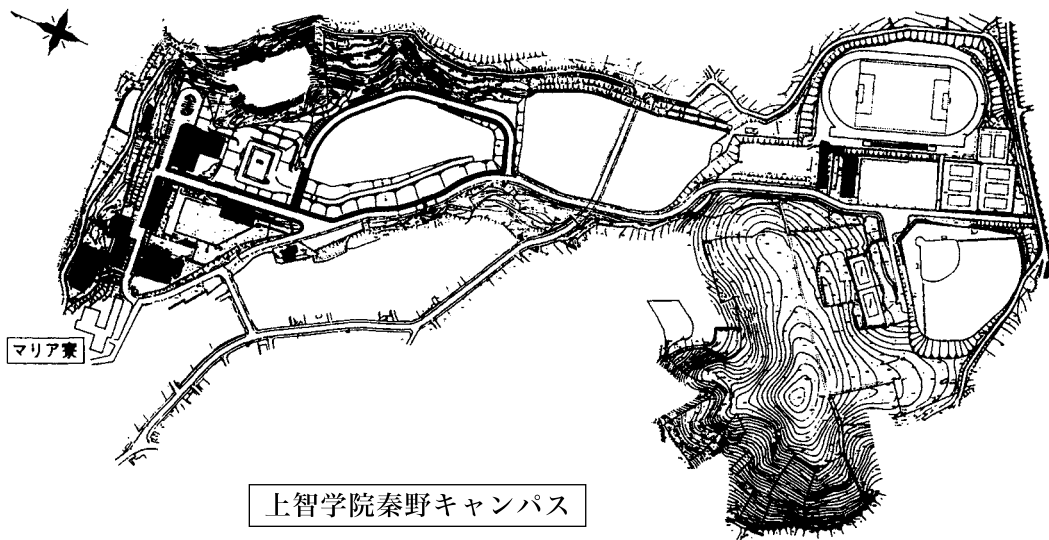
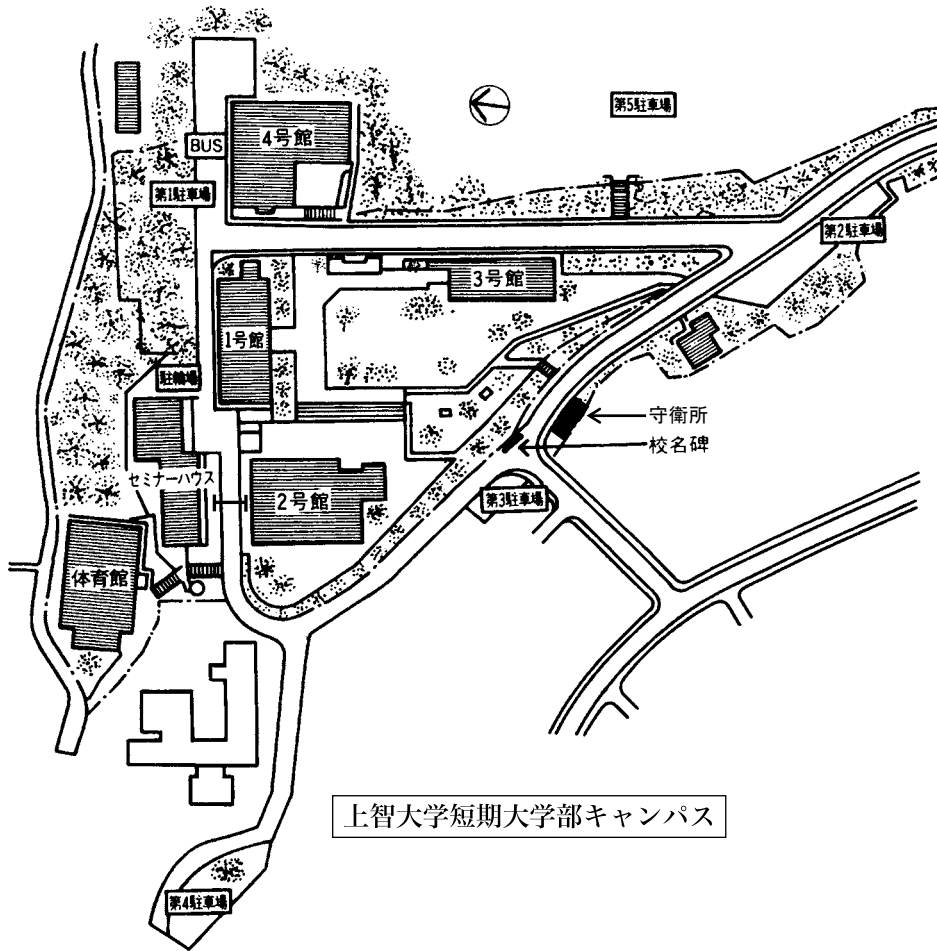
### 1. 英語科

職名	教員名	2013年度担当科目
学長代行 教授	山本 浩	映画と文学
英語科長 教授	Melvin Andrade	英語Ⅰ、TOEIC対策講座Ⅰ、TOEIC対策講座Ⅱ、言語とリテラシー教育、 プレ・ゼミナール、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ
教授	平野 幸治	英語Ⅰ、英語Ⅱ、上級英語スキルズ(編入対策)、英語史、英文学概論、 プレ・ゼミナール、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ
教授	丹木 博一	人間学Ⅰ、哲学、倫理学、キリスト教文化入門(コーディネーター)、 基礎ゼミナール、プレ・ゼミナール、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ
教授	近藤 佐智子	英語Ⅰ、英語Ⅱ、言語学概論、語用論、プレ・ゼミナール
准教授	飯田 純也	英語Ⅰ、英語Ⅱ、留学準備、英詩研究、英文学概論、 プレ・ゼミナール、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ
准教授	森下 園	歴史学、英米史、比較社会史、日本文化、基礎ゼミナール、 プレ・ゼミナール、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ
准教授	永野 良博	英語Ⅰ、英語Ⅱ、TOEIC対策講座Ⅰ、TOEIC対策講座Ⅱ、アメリカ文学史、 翻訳演習、プレ・ゼミナール、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ
准教授	神谷 雅仁	英語Ⅰ、英語Ⅱ、社会言語学、留学準備、言語学概論、 プレ・ゼミナール、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ
准教授	Timothy Gould	英語Ⅰ、英語Ⅱ、TOEIC対策講座Ⅰ、TOEIC対策講座Ⅱ、第二言語習得、 プレ・ゼミナール、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ
准教授	宮崎 幸江	日本語学、日本語教育演習、日本語教育概論、バイリンガル教育、 基礎ゼミナール、プレ・ゼミナール、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ
准教授	Chris Oliver	英語Ⅱ、文化人類学、プレ・ゼミナール (2013年度春学期 サバティカル)
准教授	杉村 美佳	初等教育、比較・国際教育学、教育学、児童英語指導者養成講座、 基礎ゼミナール、プレ・ゼミナール、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ
准教授	狩野 晶子	英語Ⅰ、英語Ⅱ、児童英語教育概説、児童英語教育演習A、 児童英語教育演習B、プレ・ゼミナール、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ
准教授	小林 宏子	人間学Ⅰ、人間学Ⅱ、宗教学、キャリア・プランニング(コーディネーター)、 基礎ゼミナール、プレ・ゼミナール、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ
助教	岩崎 明子	英語Ⅰ、英語Ⅲ、人間学Ⅰ、基礎ゼミナール (2013年度秋学期 サバティカル)
助教	Thomas Varkey	英語Ⅰ、英語Ⅱ、平和と開発、プレ・ゼミナール、ゼミナールⅠ、 ゼミナールⅡ
非常勤講師	阿部 善彦	人間学Ⅰ
非常勤講師	秋庭 大悟	英語Ⅱ、基礎英語スキルズ(リーディング)
非常勤講師	Richard Burton	英語Ⅲ、英語Ⅳ、上級英語スキルズ(TOEIC実践演習講座)、 上級英語スキルズ(ライティング)
非常勤講師	Jennifer Dizon	英語Ⅲ、英語Ⅳ、標準英語スキルズ(ライティング)、 標準英語スキルズ(ハブリンクスピーキング)
非常勤講師	Gregory Fredes	英語Ⅲ、英語Ⅳ、上級英語スキルズ(学術論文作法)、現代美術
非常勤講師	深澤 英美	TOEIC対策講座Ⅰ、TOEIC対策講座Ⅱ
非常勤講師	神門 しのぶ	教育学
非常勤講師	萩原 伸介	日本国憲法、国際関係論、比較政治制度論、ゼミナールⅠ、 ゼミナールⅡ

非常勤講師	服部 通子	基礎英語スキル <sup>®</sup> (生活の英語)、標準英語スキル <sup>®</sup> (アカデミックリスニング)、標準英語スキル <sup>®</sup> (文法・語彙)
非常勤講師	林 百合	心理学、児童心理学
非常勤講師	樋口 万喜子	日本語表現法
非常勤講師	Jadwiga Hirai	英語Ⅲ、英語Ⅳ、標準英語スキル <sup>®</sup> (職場の英語)、標準英語スキル <sup>®</sup> (メディアの英語)
非常勤講師	廣重 聖佐子	中国語Ⅰ、中国語Ⅱ
非常勤講師	石原 久子	基礎英語スキル <sup>®</sup> (文法・語彙)、基礎英語スキル <sup>®</sup> (ライティング)、基礎英語スキル <sup>®</sup> (リーディング)、標準英語スキル <sup>®</sup> (リーディング)
非常勤講師	石川 旺	マスメディア論
非常勤講師	加藤 誠	数学、基礎コンピュータ演習
非常勤講師	河北 祐子	日本語表現法
非常勤講師	木皿 久美子	体育理論・実技Ⅰ
非常勤講師	北村 さおり	音楽
非常勤講師	國分 有穂	英語Ⅲ、英語Ⅳ、標準英語スキル <sup>®</sup> (リーディング)
非常勤講師	工藤 花野	ドイツ語Ⅰ、ドイツ語Ⅱ
非常勤講師	国枝 智樹	マスメディア論
非常勤講師	桑原 光一郎	人間学Ⅰ
非常勤講師	森澤 陽子	社会福祉入門
非常勤講師	Wajira Nampet	人間学Ⅰ、人間学Ⅱ
非常勤講師	Maria Nepomuceno	英語Ⅲ、英語Ⅳ、標準英語スキル <sup>®</sup> (ディスカッション)、上級英語スキル <sup>®</sup> (ライティング)
非常勤講師	小澤 共子	体育理論・実技Ⅱ、体育理論・実技Ⅲ
非常勤講師	白瀬 宗範	経済学、経営学
非常勤講師	田畑 幸嗣	東洋研究
非常勤講師	高橋 絹子	英語Ⅳ、上級英語スキル <sup>®</sup> (多読速読)、音声学
非常勤講師	田村 和子	人間学Ⅰ、人間学Ⅱ
非常勤講師	Satish Tandon	英語Ⅲ、英語Ⅳ、標準英語スキル <sup>®</sup> (生活の英語)、標準英語スキル <sup>®</sup> (ライティング)
非常勤講師	谷口 清彦	フランス語Ⅰ、フランス語Ⅱ
非常勤講師	田内 千里	女性と哲学
非常勤講師	栢内 睦也	社会学
非常勤講師	Kenneth Williams	英語Ⅲ、英語Ⅳ、標準英語スキル <sup>®</sup> (職場の英語)、標準英語スキル <sup>®</sup> (旅行の英語)
非常勤講師	柳田 恵美子	標準英語スキル <sup>®</sup> (TOEIC実践演習講座)
非常勤講師	Alicia Yáñez	スペイン語Ⅰ、スペイン語Ⅱ



9. 本学の施設

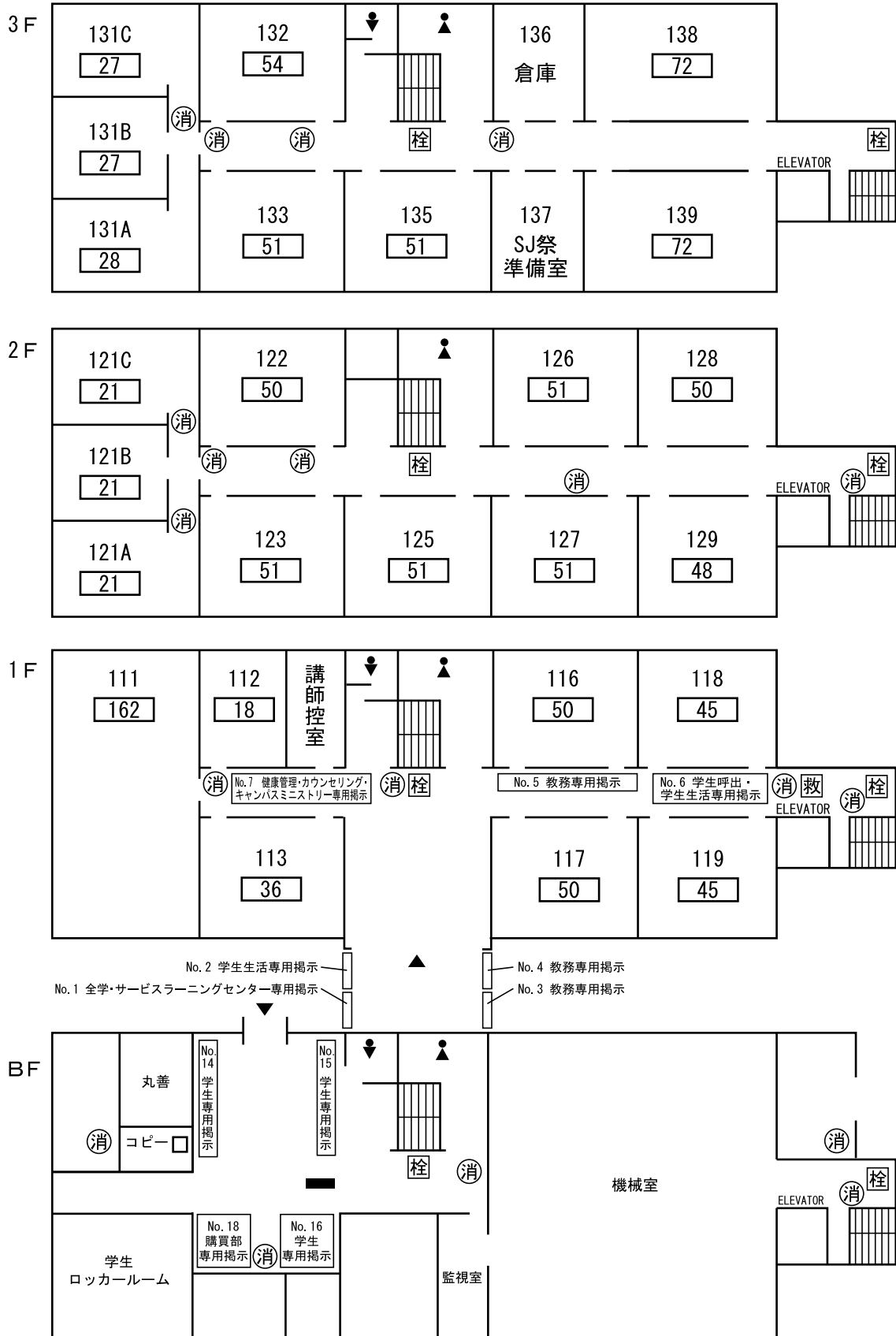


施設一覧

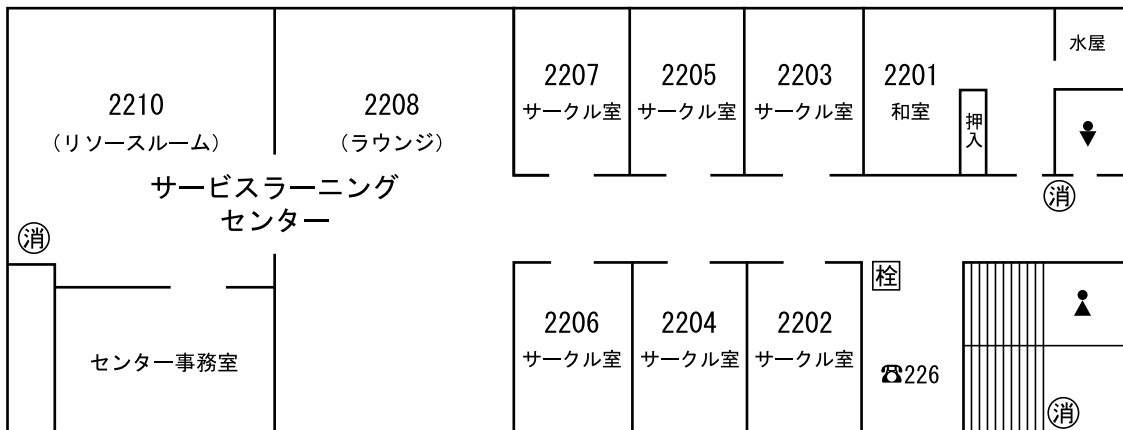
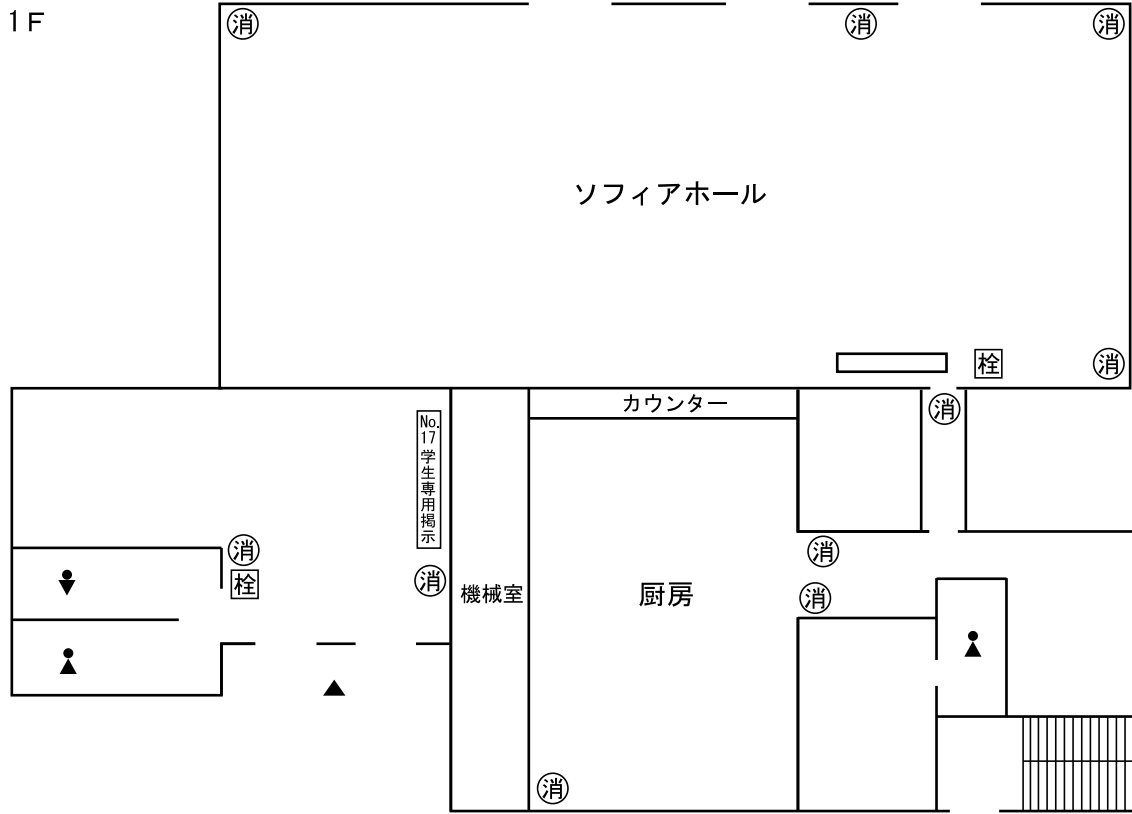
建物	教室番号	面積(m <sup>2</sup> )	3人机	1人机	椅子	教卓, 椅子	教壇	備品等	備考	
1号館 校舎棟	1 F	111	156	54		162	1	2	VTR暗幕、DVD	PCプロジェクター、スクリーン、ホワイトボード
		112	37				1			
		113	63	12		36	1			PC37台、スクリーン、PCプロジェクター
		116	63		50	50	1	2	VTR暗幕	ホワイトボード
		117	63		50	50	1		VTR、DVD	スクリーン
		118	63	15		45	1	2	VTR、DVD	スクリーン、ホワイトボード
		119	63	15		45	1		VTR、DVD	スクリーン、ホワイトボード
		講師控室	25	テーブル・4席						
	2 F	121A	44		21	21	1		VTR、DVD	スクリーン
		121B	48		21	21	1		VTR、DVD	スクリーン
		121C	44		21	21	1		VTR、DVD	スクリーン
		122	63		50	50	1	2	VTR暗幕、DVD	スクリーン、ピアノ
		123	63	17		51	1	2	VTR、DVD	スクリーン
		125	63	17		51	1	2	VTR、DVD	スクリーン
		126	63	17		51	1	2	VTR、DVD	スクリーン
		127	63	17		51	1	2	VTR、DVD	スクリーン
		128	63		50	50	1		VTR、DVD	スクリーン
	129	63		48	48	1		VTR、DVD	スクリーン	
	3 F	131A	44		28	28	1		VTR、DVD	スクリーン
		131B	48		27	27	1		VTR、DVD	スクリーン
		131C	44		27	27	1		VTR、DVD	スクリーン
		132	63	18		54	1	2	VTR、DVD	スクリーン
		133	63	17		51	1	2	VTR、DVD	スクリーン
		135	63	17		51	1		VTR、DVD	スクリーン
		136	37							倉庫
		137	37							SJ祭準備室
		138	91	24		72	1	2	VTR、DVD	PCプロジェクター、スクリーン、ホワイトボード
		139	91	24		72	1	2	VTR、DVD	PCプロジェクター、スクリーン、ホワイトボード
	建物 教室番号 面積(m <sup>2</sup> ) 3人机 1人机 椅子 備品等 備考									
	2号館 食堂棟	1	ロビー	56			12	ロビーチェア (30席)		自販機コーナー
		F	カフェテリア	620	(6人用) 73		438			食堂
		2 F	2201	26			0	座卓(×1)、座布団(×10)		和室(12.5畳)、水屋付
			2202	11			0	スチール書庫		サークル室
2203			11			0	スチール書庫		サークル室	
2204			11			0	スチール書庫		サークル室	
2205			11			0	スチール書庫		サークル室	
2206			11			0	スチール書庫		サークル室	
2207			11			0	スチール書庫		サークル室	
2208			79		(4人用) 10	40	ホワイトボード(×2)、コートハンガー、PC4台(プロジェクター・スクリーン)		サービスラーニングセンター(ラウンジ)	
2210	65		(2人用) 4 (6人用) 1	14	ホワイトボード、書架、PC4台		サービスラーニングセンター(リソースルーム、センター事務室)			
3号館 管理棟	1 F	印刷事務室	41							
		印刷室	49							
		倉庫	57							
		進路資料室	37	テーブル(×2)・6席・PC6台						
	健康管理室	90	5ベッド							
	カウンセリングオフィス	17								
	2 F	短大事務センター	115							
		学長室	37							
		第1会議室	50	テーブル(×7)・14席						
		第1応接室	17	5席						
第2応接室		17	5席							
放送室	9	時報								
3 F	聖堂	60	60席 ルーフガーデン							
	キャンパスミストリー	22								
4号館 研究棟	1 F	411	185	68		207	1	2	プロジェクション	
		412	185	64		213	1	2	システム	ピアノ
		(大教室)	(420)	(104)		(312)	演台		VTR、DVD	講演会形式
				(0)		312折288	脇台		AUD10	セレモニー形式
		413	613	集密書架(単×1・複×11) 書架(複式5連×14) 閲覧席82、A-V視聴席3						図書館
	414	170	PC51台(メインルーム36、オープンルーム15)						PC教室(2重床)	
	2 F	第2会議室	73	テーブル(×12)・24席 ホワイトボード 電話台 その他 付属倉庫用物品棚						
		第3会議室	21	テーブル(×4)・10席 ホワイトボード 電話台 その他						
		教材準備室	45	作業用テーブル(×2)・椅子(×4)・PC2台 プリンター1台 シュレッダー リソグラフ VTR DVD						
		英語科学習支援室	45	机・椅子・PC6台						
		講師室	45	テーブル(×2)・ソファセット一式・個人ロッカーその他						
		史資料室、同窓会室	22	デスク・椅子						
		キャンパスミストリー	22	デスク・椅子						
研究室×17		22×17	デスク・椅子 作業用テーブル・椅子(×4) 書架(5連)・ロッカー							
コピー室	4	コピー機・シュレッダー								
湯沸室	4	冷蔵庫								
体育館	(コート面)	441				(折) 600	バスケット×1 or パレー×1 or パレー×2			

1号館（校舎棟）

※ 消 消火器 ※ 栓 消火栓 ※ 救 救急用担架

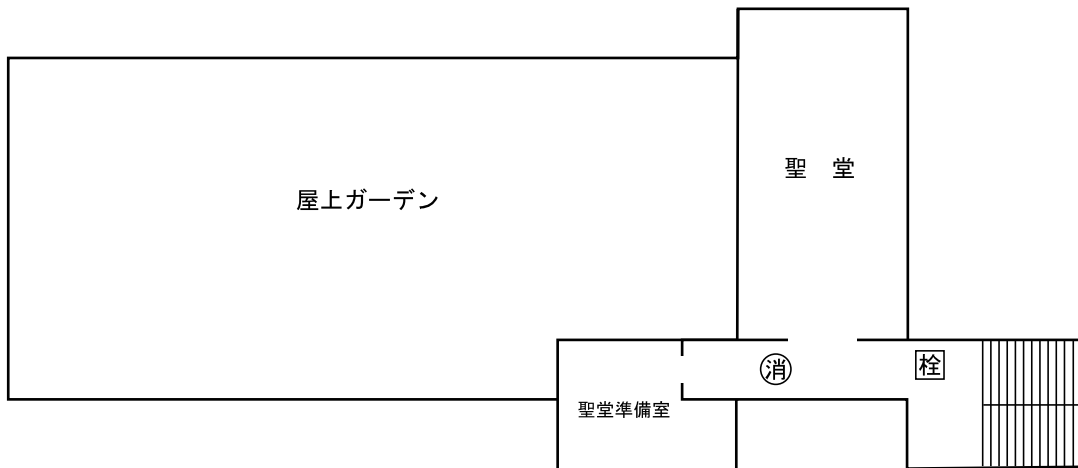


2号館（ソフィアホール・課外活動共同利用施設）

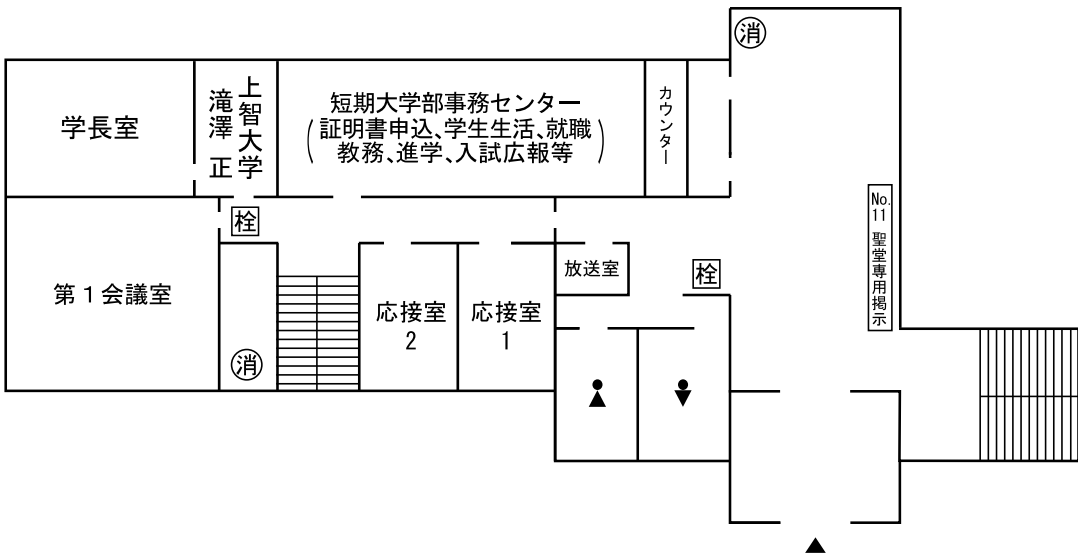


3号館（管理棟）

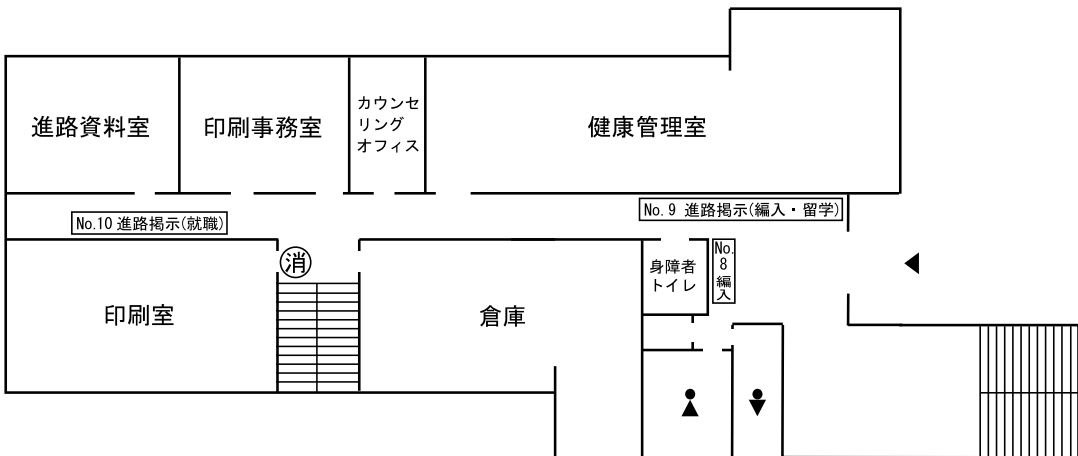
3F



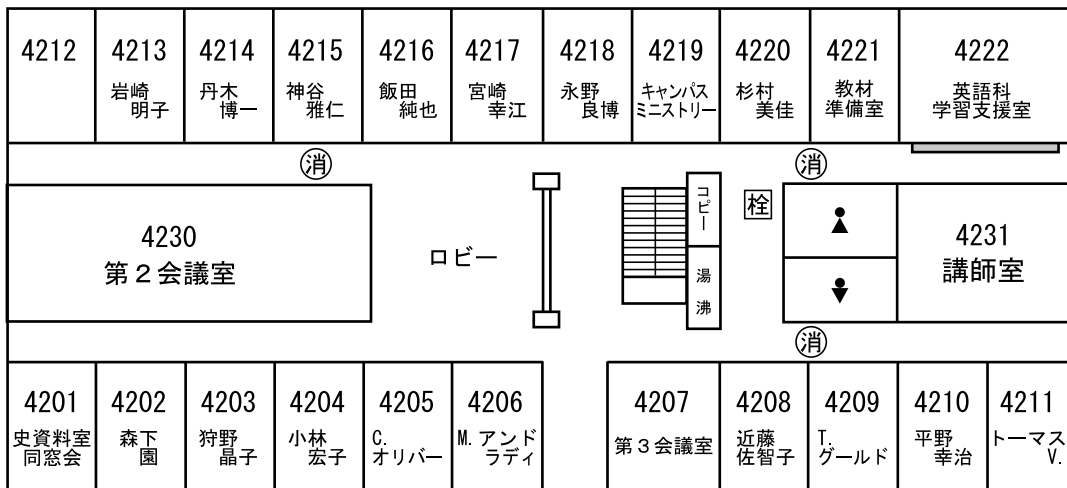
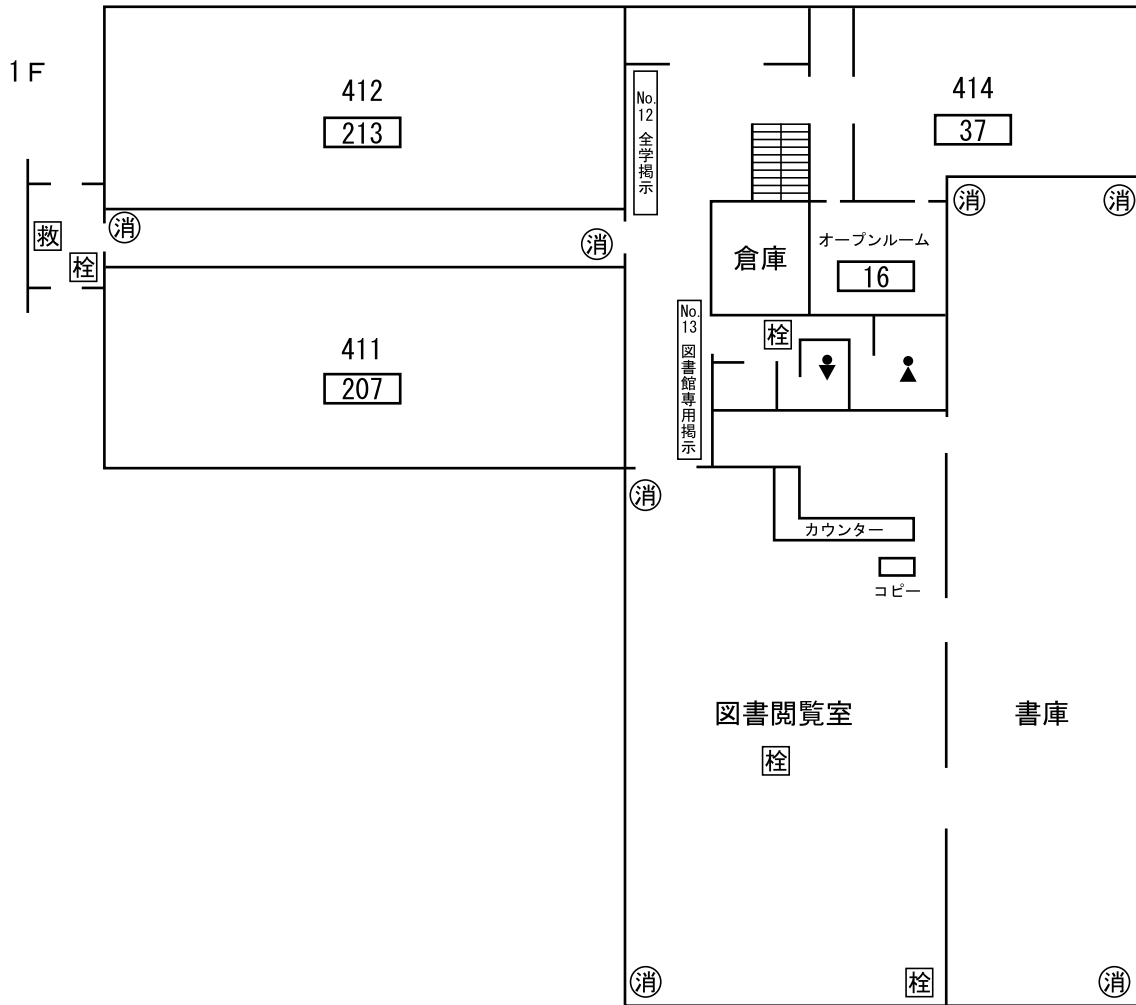
2F



1F



4号館（研究棟）



(体育館) 体育研究室—小澤・木皿